

教育委員会だより

学校教育推進の重点(学校別紹介)

第4回「伊佐小学校」

私は私を創つていく責任者

伊佐小学校の1日は、登校と同時に校門に並ぶ上級生の元気のよいあいさつで始まります。

校門のすぐ右にある『私は私を創つていく責任者』と書かれた碑文は、本校の教育指針です。生きる力の育成は自立する力を育むことであり、まさに、私を創つていく責任者は私であるということです。本校の今年度の教育目標は「命を大切に、生きいきと



校門にある石碑

学ぶ伊佐っ子の育成」です。命と人権を大切に、共に生きようとする心を育てるため、学年の枠をはずした縦割り班の行動を遠足や掃除、運動会などで取り入れています。出石養護学校との交流会や総合学習、地域行事などを通して、児童は異年齢の子どもや地域の方とふれあい、自尊心など豊かな心を育んでいます。学習指導の充実と確かな学力の定着では、基礎基本を徹底し、教えるべきことをきちんと教え、指導方法を工夫してわかる授業づくりに努めています。

また、昨年度まで国語科を中心に「豊かに伝え合う力の育成」をテーマに続けてきた研究を、今年度は国語科から他の分野にも広げ、各教科や児童会活動、ミニ発表会などさまざまな場面で、言葉を伝える機会を持ち実践力の向上を図っています。さらに、今年度は体育の時間を中心にして基礎体力づくりに取り組ん

でおり、その成果が今から楽しみみです。

引き続き、ボランティアの方には絵本の読み聞かせ(お話広場)や読書環境を整える図書室づくり(ブックママ)をしていただいています。また、防犯グループの方には、安全な登下校や地域での生活のために子どもたちに目を向けていただいています。

最近の話題として、7月2日の新浅間トンネルの開通式に伊佐小学校鼓笛隊が参加し、地域とともに歩む学校として新トンネル開通の喜びを共しました。

今後とも、学校と家庭・地域とが一体となって、活気ある活動を展開し、子どもたちの目が輝く心の通じ合う学校づくりに取り組んでいきます。

(学校長 真水健三)



新浅間トンネル開通式に参加した鼓笛隊

まちの文化財 ②

天滝と轟火山

大屋町筏にある天滝は、落差98mの雄大なものです。天滝の駐車場から西方向きに1200m、溪谷を約40分歩くと天滝に着きます。

登り口からは、岩盤を削った細い崖道を登ります。すると道の対岸に高さ100mほどの細い糸滝が見えてきます。さらに進むと谷川があり橋を渡ります。高さ4mですが2筋の流れを作る夫婦滝、17mの高さから落水する鼓ヶ滝が現れます。

約250万年前に、杉ヶ沢の轟火山が噴火しました。そして軟らかい地層の上を噴火した硬い溶岩が覆いました。この溶岩がとぎれる部分で、下の軟らかい地層が浸食されて崖となり、造瀑層を作りました。

天滝を作っている岩盤は、約3億年前の古生代のハンレイ岩(夜久野複合岩類)ですが、滝の上部の岩盤は、轟火山の溶岩である玄武岩です。つまり大屋川が200万年以上もかかって、轟火山の溶岩台地の先端部を浸食し続けた結果、今の天滝が生まれたのです。



美しく勇壮な天滝

天滝のある岩盤は、高さ100m、幅50mほどの崖が切り立っています。遠くからの目測ですが、滝口は幅4mほどで、中ほどが幅20mほどに広がり、そして滝つぼは8mほどに再び狭くなっています。

落水する滝の壁面には、階段状に10段ほどの小さなステップがあります。ここに水があたって滝の水しぶきが舞い上がっています。そして中ほどからは斜面が緩やかになって、いくつもの細い流れが広がります。落水の圧力は弱まって、滝つぼは溪谷風の小さなものです。

天滝への登山道は切り立った崖の狭い道と、V字形にせまる溪谷を7つの橋で渡る変化に富んだ自然を体感できる道ですが、落石等による事故も起きています。安全には十分に注意して勇壮な天滝の姿を楽しんでください。

(社会教育課)